

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	児童発達支援・放課後デイサービス 第2アミスター		
○保護者評価実施期間	令和 8年 2月 1日		令和 8年 2月 27日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	19名	(回答者数) 16名
○従業者評価実施期間	令和 8年 2月 1日		令和 8年 2月 27日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	5名	(回答者数) 5名
○事業者向け自己評価表作成日	令和 8年 3月 2日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	レクリエーションインストラクター・スポーツレクリエーションインストラクターの資格を所有する職員がいることで、日々の活動の中で専門的な運動発達支援やレクリエーション活動を多く取り入れることができています。	様々な発達段階の子どもたちがいる中で、全員に活動を体験してもらえるように活動を段階分けし、子どもたちの「できた」に繋がっていくように工夫しています。また、手足から全身を使用する内容の活動を幅広く行うことで、様々な刺激に繋がっています。	資格を所有している職員は継続して研修や報告会などに参加することで活動に対しての知識を深め、今後の支援に生かしていけるように研鑽を重ねています。また、資格を持っていない職員も今後、積極的に研修に参加していくことで活動の幅を広げていけるようにしていきます。
2	複合型福祉施設の特徴を生かし、学童やささまざまな人と関わる活動ができています。	併設されている学童、他の事業所と交流できる環境が整っている為、日々のプログラムに交流活動を取り入れることができています。 地域のイベントなどにも参加する事で、様々な人や考え方の違いをお互いに認め合い、支え合って学べるような環境作り、支援に携わっています。	今行っている活動を継続しながら、更に充実していけるように、保護者や子どもへのアンケート等を行っていきいます。 いただいた声を実際の活動に反映できるように検討・実施をしていきます。
3	事業所に通う子どもたちが自分から意見や気持ちを発信できる環境を整えている事で、自分も友だちも意見を聞き合いながら「やってみたい」を実際の活動に反映することができています。	話し合いを行う中で発生する意見の対立やずれ違いなどを自分たちで解決できるように職員は干渉しすぎないような立ち位置で支援を行い、見守りながらその場に応じた声掛けや意見の提示を行っています。	子ども達の話し合った内容を実現できるように、職員は様々な研修に参加していきながら、情報収集や自己研鑽に努めていきます。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	定期的な保護者会(VIDAサロン)を開催しているが、参加人数が少なく、上手く伝えることができませんでした。	開催日が全て土曜日の為、家族での時間や用事などが重なり、保護者の参加が難しかったです。	保護者に事前アンケートを行い、参加しやすい時期や曜日を事前に確認しておくことで、多くの保護者が参加できるような日程調整を行っていきいます。 子どもも保護者も魅力を感じる内容を提案していきいます。 (親子参加型の遠足等)
2			
3			